

民間部門：バンクーバー市食材調達に関するサー ベイ分析

2020年7月



民間部門：バンクーバー市食材調達に関するサーベイ分析

新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）のパンデミックによる影響が世界中に広がっており、海外または地元を問わず食材のサプライチェーンには、これまでにない負担と混乱が生じています。バンクーバー市緊急対策センター（EOC: Emergency Operations Centre）では、2020年5月に以下を目的としてバンクーバー市内で営業するフードビジネスに携わる3691社を対象にサーベイを行いました。

- バンクーバー市の多様なフードビジネスとそのサプライチェーンにおいて、COVID-19がもたらした影響と課題を理解する
- バンクーバー市のフードビジネスが求める支援を見直し、バンクーバー市行政が提供または提唱できるものを評価する

サーベイの実施方法

サーベイは英語でオンラインにて、もしくは企業担当者の要請があった場合はその他の言語で電話にて実施されました。サーベイの詳細は下記を通して配布されました。

- バンクーバー市のCOVID-19に関するウェブサイトに掲載
- バンクーバー市のライセンス局を通してフードビジネス ライセンスを付与されている企業、ならびにバンクーバー市のネットワークを通じて関連のあるその他の企業の計3691社へEメールを送付
- バンクーバーのエスニックフードサプライチェーン企業をサンプリングして、電話による問い合わせ

サーベイは2020年5月12日から31日まで実施されました。この時期、ブリティッシュコロンビア州は州の再開計画の「フェーズ1」から「フェーズ2」へと移行する過程にありました（フェーズ2は5月19日に開始）。¹

サーベイの結果は、今後の情報伝達に最も要望が多かった言語である繁体中国語、英語、日本語、韓国語、パンジャビ語、タガログ語、ベトナム語で入手可能です。このレポートは、連絡先情報を提供した企業、バンクーバー市のネットワーク、ならびにその他の関係当事者と共有されます。このサーベイで収集された情報は、バンクーバー市職員によって見直しが行われ、今後数か月間におけるバンクーバー市による継続的なパンデミックへの対応を通知するのに使われます。

サーベイの結果と分析

対応のスピード

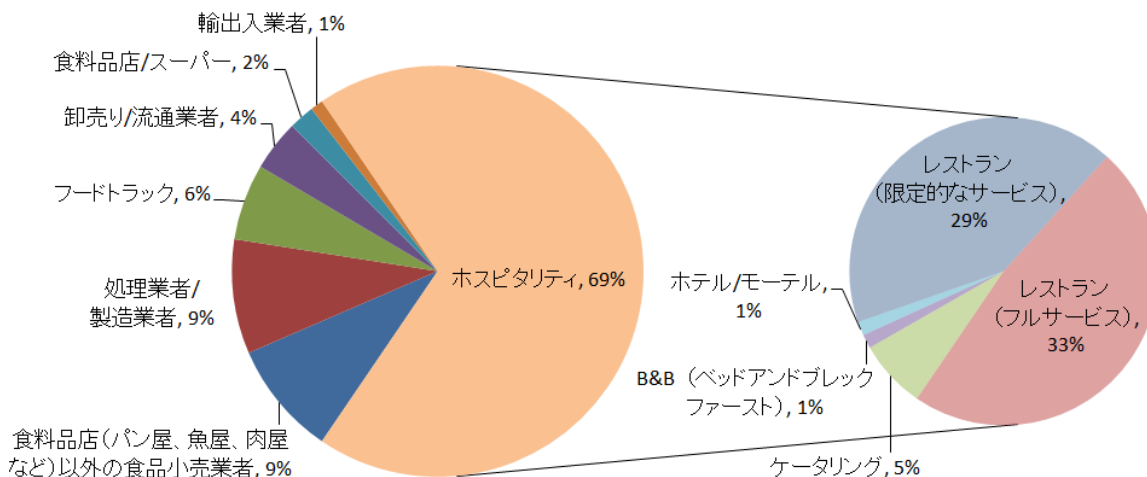
バンクーバー市ライセンス局のデータによると、2020年4月30日付けでバンクーバー市内には3691社のフードビジネス企業/団体があり、4195か所に事業拠点を置いています。

484事業拠点をカバーする合計313社がこのサーベイに回答しました（一部企業は複数の事業拠点がある）。14社が、バンクーバー市には事業拠点は無いが、バンクーバー市の住民・企業にサービスを提供する場合がありますと回答しています。バンクーバーの食品業界におけるこうした企業の重要な役割を鑑み、結果にはその回答が含まれています。

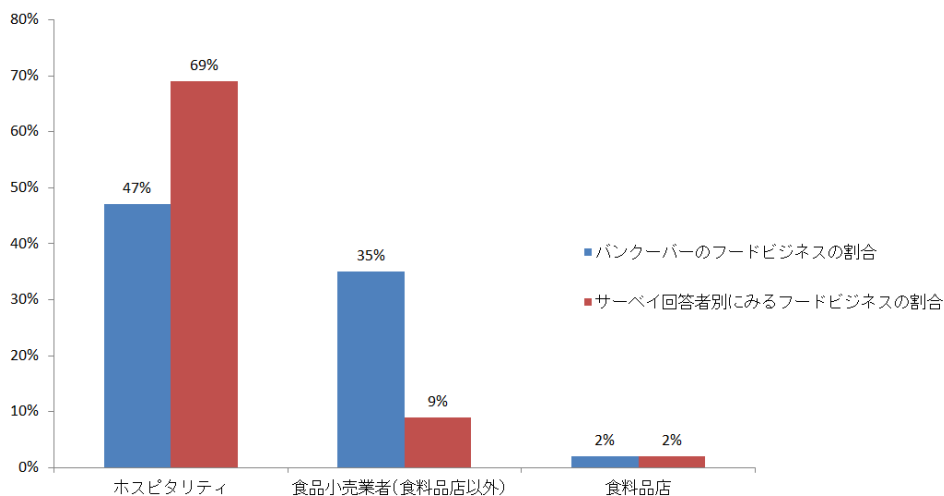
情報伝達を行う際の言語に英語を選択する企業は全体の82%に上りました。その他の言語グループでもっとも希望が多かったのは、韓国語（6%）、北京語（4%）、広東語（3%）でした。

¹ <https://www2.gov.bc.ca/gov/content/safety/emergency-preparedness-response-recovery/covid-19-provincial-support/bc-restart-plan>

グラフ1: 事業タイプごとのサーベイの回答 (総回答数 = 313社)



グラフ2: バンククーバーで運営される事業の種類でみるサーベイの回答率



休業の状況

27%の企業 (85社) が、無期限または一時的に休業したと回答しました。これらの企業は、本レポートでは総称して「休業中の」企業と呼びます。

回答によると、このサーベイの時点において、累積合計3009名の従業員が解雇されています。このうち少なくとも88% (合計2647名) は一時解雇で、12% (合計362名) は完全解雇でした。

データによると、事業規模が小さいほど (従業員数で計測)、休業した割合が高かったことが示されています (グラフ3)。とりわけ従業員を持たない個人事業主の40%は、休業したと報告しています。

グラフ3: 事業の規模別にみるフードビジネスの休業状況

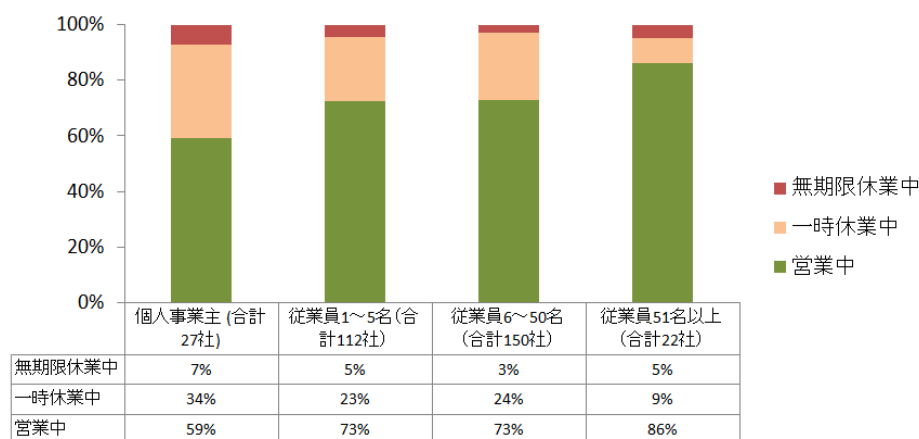


表1: 言語グループ別回答にみるパンデミックの影響をもっとも受けた休業

言語グループ	休業の割合
英語でのコミュニケーションを希望する (合計256社)	28%
広東語、フランス語、日本語、韓国語、北京語、パンジャビ語、スペイン語、タガログ語、ベトナム語、およびその他の言語でのコミュニケーションを希望する企業 (合計57社)	25%

韓国語と北京語を希望すると答えた企業は、他の言語グループより休業した割合が高くなりました。北京語を希望する企業 (合計12社) のうち、休業は42%、無期限休業は8%となりました。韓国語を希望する企業 (合計20社) のうち休業したのは35%で、いずれも一時的な休業となっています。

サプライチェーンの問題

企業が直面しているサプライチェーンの問題の種類とフードサプライチェーンのどこでこの問題が生じているかを質問しました。営業中の企業は、食材の不足、注文の限界、遅延、入手不可能な製品、供給過多といった、平均して2つの異なるフードサプライチェーンの問題を抱えていると回答しています。問題の種類や頻度は、事業の種類によって異なりました (表2)。

表2: フードビジネスにおいて報告される共通の食材サプライチェーンの問題

営業中の企業が直面する問題の割合	問題の種類	よくある問題
79%	食材供給の問題	<ul style="list-style-type: none"> 不足 (44%)、 遅延 (39%)、 注文の限界 (39%)、 入手不可能な製品 (39%)
39%	海外のサプライチェーンの問題	<ul style="list-style-type: none"> 問題のある地域: <ul style="list-style-type: none"> アジアの食材 (22%)、 米国の食材 (10%)、 ヨーロッパの食材 (7%)
80%	サプライチェーンでの停滞の問題	<ul style="list-style-type: none"> カナダの卸売業者との間 (52%)、 食料品小売業者との間 (26%)、 カナダの処理業者/製造業者との間 (25%)
95%	特定の食材の種類での供給問題	<ul style="list-style-type: none"> 肉、その他動物性および植物性のたんぱく質 (52%)、 生鮮食品 (38%)、 パン、パスタ類 (25%)

供給過多と食品廃棄

営業中の企業（合計218社）のうち、19%が3月のパンデミックの発生以降に食材の供給過多を経験したと回答しています。食材小売業者と卸売業者/流通業者は、それぞれ28%と25%が食材の供給過多を回答しており、他の食品関連事業よりも供給過多が多かったことが報告されています。

寄付に回す余剰食材を評価するため、食材の寄付サービスを行っているかを尋ねる質問もありました。

- 余剰食材を抱える営業中の企業のうち、44%の企業が寄付を行っています
- （営業中、休業中を併せ）すべての企業のうち22%の企業が寄付を行っています

サプライチェーンの問題とCOVID-19を原因とする消費者の行動変化を理由に、これまでよりも食材のコンポストや廃棄が増えているかどうかを尋ねました。この質問に回答した営業中の企業200社のうち、35社（18%）が通常よりも食材のコンポストや廃棄が増えていると答えています。

食料品/フードデリバリーサービス

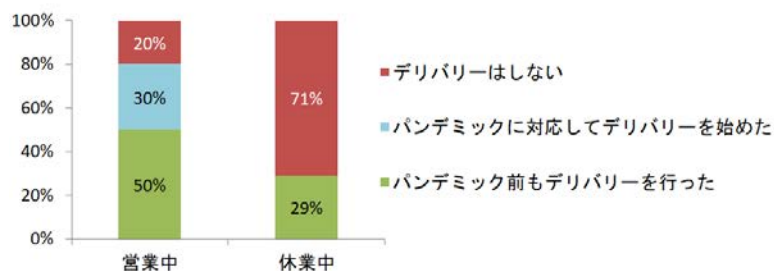
食料品店

9か所にある食料品店企業のうち、いずれも営業中の8社が本サーベイに回答しました。食料品の販売とデリバリーについて回答した企業（合計4社）のうち、1社は顧客によるピックアップ型のオンラインショッピングを、1社は第三者サービスを使った買い物とデリバリーサービスを提供しています。

デリバリーサービスに適したその他のフードビジネス

デリバリーサービスの経験の評価のために、ケータリング、レストラン、ホテル、および食品小売業者をグループ分けしました。このビジネスグループは、本レポートでは「デリバリーサービスに適したその他のフードビジネス」と呼ばれます。デリバリーサービスに適した239社（事業拠点383か所）が本サーベイに回答しましたが、そのうち営業中が71%で、休業中が39%を占めました（表4）。データによると、デリバリーサービスを使った企業（もしくはパンデミックに対応してデリバリーサービスを始めた企業）は、パンデミック期間中の回復がより早かった可能性があります。

グラフ4: デリバリーに適したフードビジネスの状況とデリバリーサービス



食料品店、ケータリング、ホテル/モーテル、レストラン、食品小売業のうち37%（92社）は、デリバリーサービスに関するウェビナーへの関心を示しています。

営業中の企業の個人防護具（PPE）

PPEに関する質問に回答した営業中の企業の32%（合計228社）が、今後2週間に十分なPPEがないと回答しています。サーベイに参加した企業は、具体的に不足しているさまざまなPPEについて注記しています（表3）。

表3: 営業中のフードビジネス企業におけるPPEの使用と不足

PPEの種類	PPEを使った営業中の企業の割合	PPEが不足している営業中の企業の割合
手袋	95%	12%
フェイスシールド	61%	16%
マスク	88%	19%
ハンドサニタイザー	96%	15%

サーベイに参加した313社のうち、72社（23%）がバンクーバー市にPPEの調達支援を求めています。

- 回答した企業のうち、マスクの支援を求める企業13%
- ハンドサニタイザーの支援を求める企業12%
- アクリル板設置の支援を求める企業12%。

企業が指摘する追加支援

- 46%の企業が屋外での飲食向けにパティオスペースを一次的に拡張したいと答えています。
- 50%の企業がバンクーバー市が従業員ならびに会社の賃料救済のため、州・連邦レベルの政府に働きかけてほしいと回答しています。

結論

パンデミックによる損害はこれまでにないレベルであり、バンクーバー市は市住民ならびに従業員を保護、維持するためにフードビジネス業界の方々が忍耐強く、さまざまな対策を取って下さっていることに深く感謝いたします。

特に貴重な時間を使って本サーベイに参加して下さいました方々に深くお礼を申し上げます。より詳細な内部レポートをバンクーバー市の関連部署と共有して、COVID-19 の第2波の到来時の市の対策を通知し、またこれを市の復興努力の一環とします。

質問またはコメントがある場合は、covid-foodici_outreach@vancouver.caまでEメールでお問い合わせください。